

エネルギッシュな風土はみんなで作る

校長 武井 正明

腰痛明けの学校だから、ゆっくりと始めようと思っていたが考えが甘かった。

まあ朝から真和会入会式だ。慌てて体育館に行った時は、副会長が既に説明を始めていた。もう相当な場数を踏んできた。それが大きな経験となり、ふたりとも落ち着き払ったものだ。

専門委員長たちも、年度末のリーダー研修が生きている。何か自信めいたものが伝わってくる。これも何か「上級生の格の違い」みたいなものを、きっと1年生は感じたのではなかろうか。



そして放課後、第2弾が待っていた。

吉中名物部活動説明会。目まぐるしく文化部と運動部が交互に入れ替わって、自分たちの部活動について趣向を凝らして紹介する。

新採用の土屋先生は「こんなに多くの生徒がいるのに、自分が何をすればいいのかがわかって動いている感じですねえ」と目を丸くして驚いていた。

カメラを向けているうちに腰痛など忘れてしまうくらい、早い展開だった。

特に男女テニス部が登場し、サーブをペットボトルに当てる場面になると、思わずみんな立ち上がり、至る所で溜息や歓声が上がった。

剣道部が、面や小手の瞬の動きを、風船をつけて見やすくする。風船が割れた時などは拍手が起こった。どの部も、なかなか凝った演出である。



今回の部活動紹介、最も盛り上がった要因は何だろう。それは新1年生の、興味津々で先輩たちの紹介を見入っていた姿勢にあると思う。ひじょうに新鮮で瑞々しい感覚で、説明を乗り出して聴く。これだけ集中して、一生懸命見聞きしてくれれば、それはやる方だって火が点く。



左の写真を見てほしい。あまりにもその集中ぶりが素晴らしく、嬉しさに思わずシャッターを切った。

今年度も、こういう写真をいっぱい撮りたいなあ。

準備してくれた担当の先生方や生徒の皆さん、お疲れさまでした。1年生の楽しそうな表情が、今日の答えです。

今日もまた吉中生達から、いっぱい力を貰いました。楽しい一日をありがとう。